

お気に入りの一冊語る

ビブリオバトル新宮

新宮市

新宮市役所別館で14日、和歌山県教育委員会主催の「中高生読書まつり・ビブリオバトル和歌山大会」の地方予選を兼ねた「ビブリオバトル新宮」が開催された。中学生の部、高校生の部に各5人が出場し、オーディエンス(観戦者)に向けてお気に入りの一冊を語った。

ビブリオバトルはバトル(発表者)がお薦めの本について1人5分間スピーチし、オーディエンスが最も読みたくなった「チャンプ本」を投票で選出するもの。コミュニケーションゲームとしての楽しさを味わうことも重視され、読書推進活動として全国的な広がりを見せている。

速水盛康教育長は「今回は想像力をかき立てられるタイトルの作品ばかり。読書というのは非常に素朴だが、自分の楽しみや想像を膨らませ、心を豊かにしてくれる。ぜひ読書への情熱をぶつけて」とあいさつした。

出場者たちはあらすじや自分自身の体験を交えて堂々と本の魅力を紹介。応援に駆け付けた友人や保護者、学校関係者らも巧みな語りに聞き入った。

中学生の部では中川紀夏さん(熊野川中3年)の「5分後に意外な結末 x エメラルドに輝く風景」、高校生の部では矢萩舞さん(近大新宮高1年)の「流浪の月」がチャンプ本に選ばれ、12月20日(日)に田辺市の県立

情報交流センターBig・U内の県立紀南図書館で開催される和歌山大会への出場権を手にした。

中川さんは「選ばれると思っていたなかったもので、びっくり。県大会でもチャンプ本を目指したい」。矢萩さんは「トップバッターで緊張した。好きな本のジャンルはミステリーです」と話していた。

生徒が紹介した本は近日中に新宮市立図書館で展示される予定となっている。(石田幸子)



チャンプ本を持つ矢萩舞さん(左)と中川紀夏さん



オーディエンスに向けスピーチ
14日、新宮市役所別館